

## 鋼構造委員会「鋼床版の維持管理と更新に関する調査研究小委員会」（仮称）委員の公募

土木学会鋼構造委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会に参加いただける方を公募します。本委員会の目的及び内容は以下の通りです。

### <委員会名称>

鋼構造委員会 鋼床版の維持管理と更新に関する調査研究小委員会（仮称）

委員長 内田大介：法政大学

### <背景と目的>

鋼道路橋の鋼床版は軽量であることや架設工期が短い等の理由から我が国では数多く採用され、その径間数は数千に及ぶ。鋼床版の疲労問題は大半の鋼床版では生じておらず、現状では都市高速などの重交通路路線に限られた問題である。しかし、疲労損傷の種類によっては重大な事故に繋がる可能性があるため、損傷が確認された各道路管理機関、大学や民間の研究機関において数多くの検討がなされてきた。これらの検討結果については、「鋼床版の疲労」として取りまとめられて1990年に土木学会の鋼構造シリーズ4として発刊され、20年後の2010年に鋼構造シリーズ19として全面的に改訂されている。2010年の改訂は当初確認されていなかった重大な損傷、すなわちデッキプレートを貫通するき裂の事例や点検・調査方法、補修・補強事例などについて取りまとめられた。

鋼床版は構造詳細による疲労設計が行なわれており、2009年のデッキプレート最小板厚の増厚等、構造改善により高耐久性化しているが、既設橋に対しては、「鋼床版の疲労」が改定された2010年以降も提案されている種々の補修・補強方法や、維持管理計画策定の際に必要な余寿命評価方法に関する取りまとめが有用であると考えられる。新設橋に対しては、鋼床版の疲労寿命評価が、大型車交通量を考慮した合理的な構造詳細の選定につながる可能性がある。また、高耐久性化された鋼床版は、老朽化した鉄筋コンクリート床版の更新への適用も期待できる。軽量で既存桁への補強が少なく施工性の良い鋼床版への更新は、これまでに50橋を超える施工事例があることがわかっているが（日本橋梁建設協会の調査結果）、これらの事例は体系的に整理されていない。

本小委員会では、2010年の改訂以降も進められている鋼床版の補修・補強に関する検討や実施事例について取りまとめるとともに、これまでに提案されている疲労強度評価方法を再整理する。また、既往の取替え鋼床版について机上調査や現地調査を実施して施工事例を整理し、今後検討を行なう際の参考となるよう、設計や施工に関する課題について取りまとめる。

### <活動期間>

2019年7月～2022年6月（3年間、予定）※旅費、交通費は支給されません

### <公募締切日>

2019年6月17日（月）

<応募方法>

本委員会に参加を希望される方は、(1)氏名、(2)年齢、(3)所属、(4)連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス）(5) 特に興味のある検討事項，等について，下記の応募先まで E-mail でご連絡ください（書式は任意）．応募の際のメールタイトルを「鋼床版の維持管理と更新に関する調査研究小委員会」とご記入下さい．なお、委員数は全体で 20 名程度を予定しています。応募者数によっては希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おき下さい。

<応募先，問い合わせ先>

井口 進（幹事長）株式会社 横河ブリッジホールディングス 総合技術研究所

〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港 88 番

Tel. 043-247-8411 Fax. 043-247-8412

E-mail : [s.inokuchi@ybhd.co.jp](mailto:s.inokuchi@ybhd.co.jp)